



6. 大府市の介護の特徴

- (1) 知多北部広域連合(大府市・東海市・知多市・東浦町)が介護保険者である。
- (2) 知多北部広域連合内で居宅介護支援事業所数、介護老人福祉施設の定員数が1位。
- (3) 大府市居宅介護支援事業所連絡協議会、通所系サービス事業所連絡会、訪問介護サービス事業所連絡会があり、同職種での情報交換や研修会と三連協合同の研修会を実施している。
- (4) 居宅サービス受給者に比べ、施設サービス受給者数が高く、サービス事業所も通所サービス事業所の方が多い。



7. 大府市の強みと活動について

(1) 医療も介護も同職種は定例会議や研修を開催し、情報共有ができています。

⇒◎本事業をきっかけに、三師会の会合や多職種の情報共有がされ始めた。

◎全体会議兼多職種連携研修会等の事業は、準備段階から、多職種の有志と連携を図り、意見を反映して事業実施していった。

(2) 在宅医療に熱意のある医師がいる。

⇒◎若い医師を委員にし、モデル事業の状況を定例会議で報告等をして、在宅医療への関心を高めた。

(3) 長寿医療研究センターがあり、指導を受けやすい環境にある。

⇒◎長寿医療研究センター内の多職種も研修に参加していただき、地域の医療・介護の職員と顔のみえる関係づくりができています。

(4) 高齢化率が全国に比べて低く、若い世代が多い。医療機関や介護施設も充実している。

⇒◎危機的な状況になる前に、市民や関係者とじっくり考え、支援体制を整えていける。

⇒強みも弱みも表裏一体。いかに強みにしていくか。
事務局の考え次第！千里の道も一歩から・・・



8. 大府市の弱みと活動について

(1) 医療も介護も24時間体制の事業所はあったが、利用者が少なく、市民への周知も行き届いていなかった。

⇒◎24時間体制のワーキンググループにおいて検討
同職種でのチーム制や主担当・副担当制は現実的ではないことがわかった。実現可能な方法から検討している。

(2) 多職種の連携は図れていなかった。

⇒◎顔のみえる関係づくりをころがけ、全体会議兼多職種連携会議等の事業を行った。このモデル事業をきっかけに多職種連携が発展している。

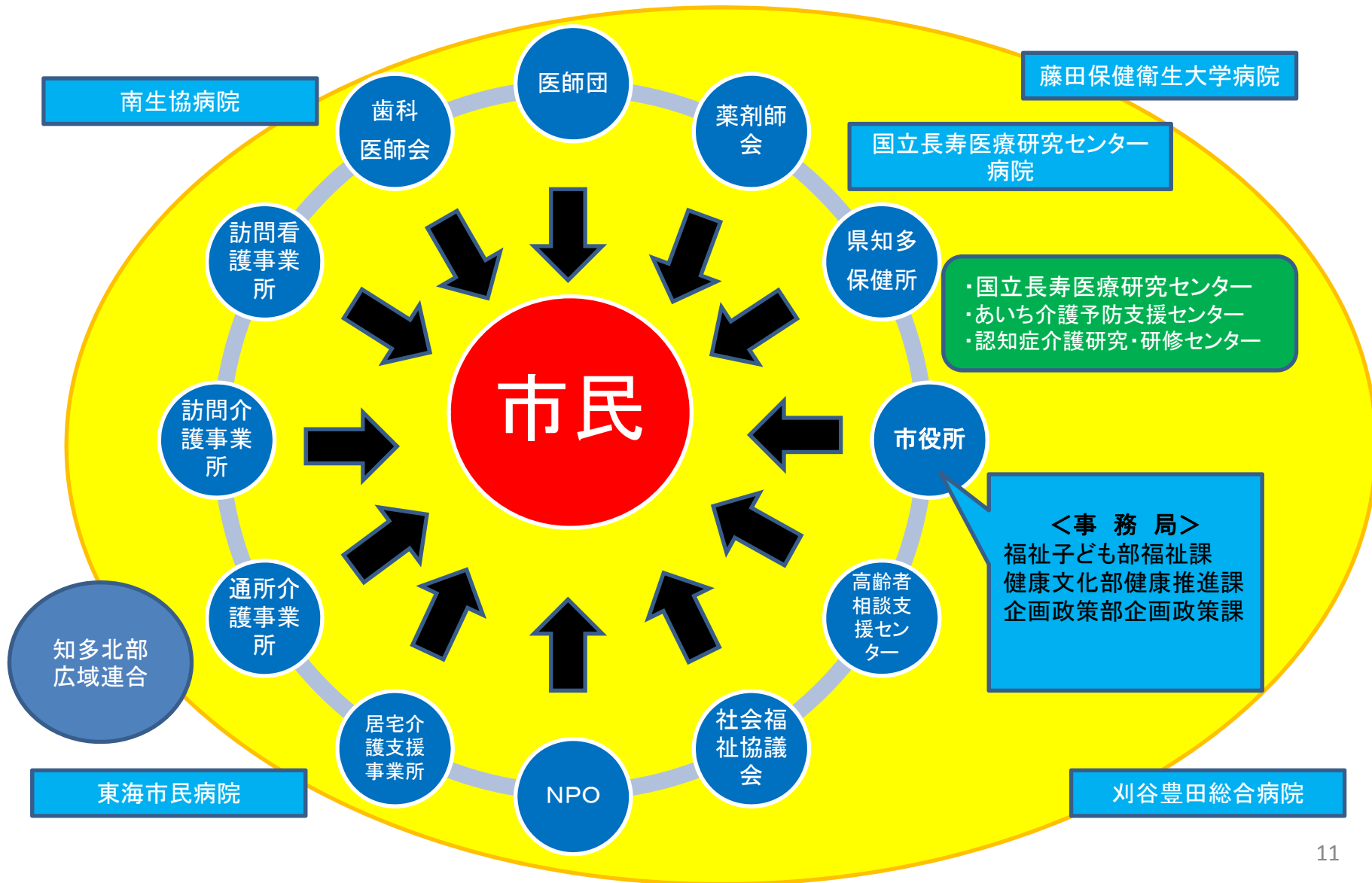
(3) 若い世帯が多く、地域全体に高齢化に対する危機感が低い。

⇒◎今後、介護等を担っていく30, 40歳代に向けて、情報発信や啓発をしていく必要がある。現在、40歳代の関係者を中心に協力体制を築いている。

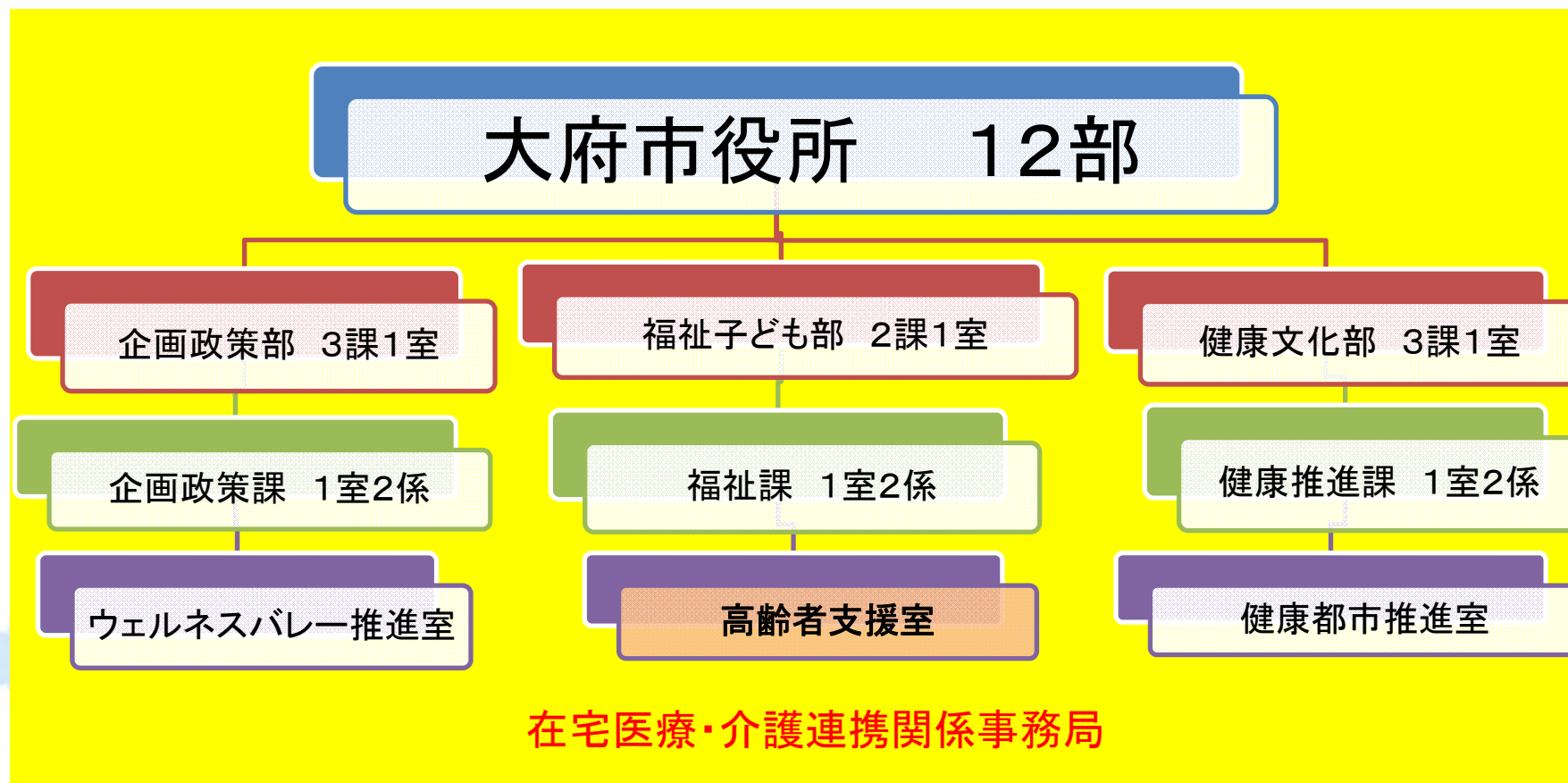
⇒実現可能なものから、コツコツと！



9. 大府市の在宅医療の組織図



10. 担当組織





11. 担当組織

(1) 主事務局 介護保険の担当窓口 福祉課高齢者支援室

実務担当者 室長補佐(保健師) 1名、地域関係者とつながりをもつ専門員 1名
非常勤(5時間)事務職 1名、 主任(保健師)健康都市推進室兼任0.5名

実働 4名

関係事務局 福祉こども部長、同参事、高齢者支援室長、同主査
健康文化部長、同参事、健康推進課課長、健康都市推進室主査
企画政策部企画政策課ウェルネスバレー推進室長、同主任

関係10名

(2) 現状と課題

3部3室が横断的に連携して事業を推進しており、市のやる気を多職種に示すことができた。
事務局職員の人数が多く、事務局打ち合わせの日程や意見調整に時間がかかる。

(3) 今後取組む市町に向けた提案

2025年問題に向けて継続できるしくみをつくる必要がある。
担当が変わっても、継続できる組織にしておく必要がある。
実務担当者は、3名以上必要。

最低医療職1名、事務職1名、地域の関係者とのつながりをもつ専門員1名





12. 地域の顔の見える関係作り

(1)アウトリーチ 25年度

- ①三師会(医師、歯科医師、薬剤師)の定例会議に、事務局の部長が趣旨説明、委員選出を依頼。
- ②高齢者相談支援センター(地域包括支援センター)職員、介護の三連協の3役員とともに、担当者が出向いて、ミニ勉強会を4回開催し、委員選出を依頼。
- ③訪問看護ステーション全6か所を訪問。
- ④25年度準備会議を3回開催
準備会議委員(在宅医療・介護に熱心な医師、歯科医師、薬剤師等の委員の事業所)事務局担当者が訪問。再説明と委員依頼。
- ⑤居宅介護支援事業所連絡協議会代表に事務局担当者が訪問し、趣旨説明
- ⑥26年度在宅医療・介護連携推進会議(通称:代表者会議)委員選出は、団体に選出を依頼。事務局担当者が会議前に委員事業所に訪問し、依頼。





13. 地域の顔の見える関係作り

(2)アウトリーチ 26年度

- ①地区民生児童委員協議会 全8地区定例会議出席 5~7月
- ②三連協(大府市居宅介護支援事業所連絡協議会、通所系サービス事業所連絡会、訪問介護サービス事業所連絡会) 総会に出席 5月
- ③薬局訪問 20件 10月…11月の多職種連携研修会の案内持参
収集できた意見 ●案内郵送のみでは伝わっていない現状の把握ができた。
●1人薬剤師の薬局では研修会等に参加できない。
●情報共有のためのICT活用には興味を示された。
- ④ワーキンググループ委員の事業所訪問 10件 10月…課題の収集
収集できた意見 ●会議では出ていない意見や思い(本音)が聞けた。

アウトリーチの重要性の再認識
色々な人の所に出向いて話し合う。本音を受け止める。

